

# 空 楽 々

「  
555  
」

2016

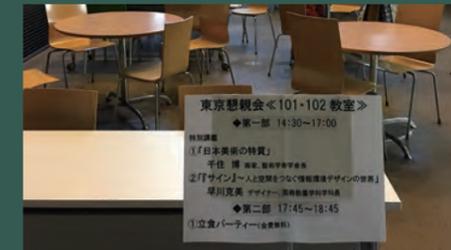
# 冬





## 2016年度 秋・冬イベント

夏のイベントに続き、秋以降も通信教育部やコース研究室が主催するイベントが開催されました。また、学生が主催するイベントも開催され、共に学ぶ空デメンバー同士の交流を深めるとともに、大学生活での有意義な時間を過ごしました。



### 東京懇親会2016 2016年12月10日(土)

12月10日には、東京外苑キャンパスで東京懇親会が開催されました。

今年の懇親会も去年と同様に第一部と第二部の二部構成となっており、第一部では画家で藝術学舎の学舎長である千住博先生とデザイナーで芸術教養学科長である早川克美先生による特別講義が開催されました。また、第二部では立食パーティーが行われ、200名以上の通信の在校生・卒業生が参加し、盛況となりました。今回は空デからは通信教育部長の上田篤先生の外に、教員では当日「卒業制作」スクーリングを担当していた田村蘊先生と川合健太先生が参加されました。当日開催されていたスクーリングはひとつだけでしたが、卒業制作着手生以外の在校生・卒業生も多数参加して交流を深めました。

なお、例年の立食パーティーでは、食べ物が乾きモノ主体でもそれなりに満足して終了していましたが、昨年参加された大野木啓人副学長のご好意により食べ物がケータリングへグレードアップしました。と思いきや、開始早々にあっという間に無くなってしまい、最後の挨拶で上田先生が準備した食事の量の予測ミスに深謝していました。

一時間程の立食パーティーを楽しんで中締めをした後も各コースに別れての交流が続きました。



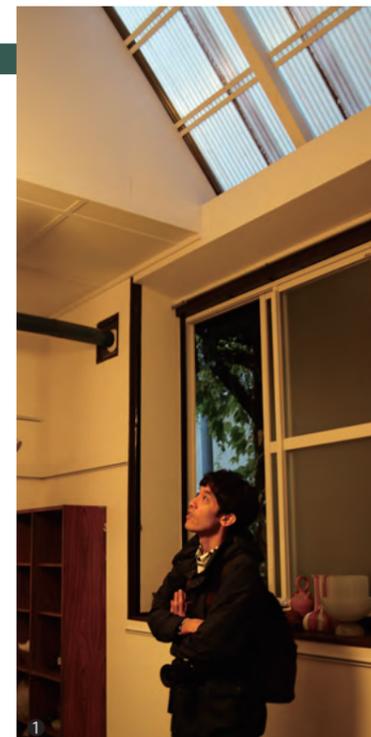


## 空デエクスカーション2016・関東 2016年11月3日(木)

関東のエクスカッションは、目白駅を起点として、新宿区落合にある中村彝アトリエ記念館と林芙美子記念館（設計：山口文象）、そして豊島区に昭和20年代まで点在したアトリエ村にある池袋モンパルナスアトリエ館と春日部幹アトリエ（共に改修設計：春日部幹）を徒歩で巡るツアーとなりました。

途中、この日が年に一回の公開日となっている旧島津家アトリエ（設計：吉武東里）も見学しました。予定外のコースで、しかも入場時間まで残り少なかったため、かなりの早足で移動して見学することとなりましたが、貴重な文化財を見ることができました。林芙美子記念館もそうですが、庭を含めた空間が静寂で都内であることを忘れてしまいました。

春日部幹先生が改修された二つのアトリエでは現在の池袋モンパルナスの活動状況やアトリエ建築（アトリエ付き借家）の特徴（北側の採光用の窓やキャンパスを出し入れするための扉など）が紹介されました。また、自宅である春日部幹アトリエでは、お仕事の区切りが付いた奥様にも参加頂き、建築やアート以外にもいろいろなお話を伺いながらの和気あいあいとした雰囲気での時間となりました。



## 空デエクスカーション2016・関西 2016年11月3日(木)

関西のエクスカッションは、在校生・卒業生合わせて10名のメンバーで、滋賀県の近江八幡市に行ってきました。JR近江八幡駅へはJR京都駅から車で40分程の距離となりますが、「BIWAKO ビエンナーレ 2016」というアートイベントの開催期間中であり、かつ、ちょうどウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計した「アンドリュース記念館」「ウォーターハウス記念館」の特別公開日となっていたため、2本立てでの見学ツアーとなりました。

BIWAKO ビエンナーレは、江戸期に建てられた町家や工場などを会場とした芸術祭となっており、旧市街のまちなかを散策しながらアート作品を鑑賞していきました。

鑑賞していくだけで、半日から一日はかかるほどの多くの作品に出会い、参加メンバーのみなさんはその展示空間と相まって大きな刺激を受けておられるようでした。

また、ヴォーリズ建築では、通常は見られない建築の内部に触れることができ、日本と海外の感覚が融合した、とても居心地の良いゆったりとした気持ちを味わえる時間となりました。

※写真提供：岡本正人先生



- 1: 展示空間と展示物の関係が美しいアート作品たち
- 2: アート見学の際は山登り
- 3: 在校生待ちで眺めを堪能している寺尾先生と卒業生

- 昭和の初めから戦前にかけて、豊島区长崎・千早・千川地区にアトリエ付借家群が形成され、アトリエ村と呼ばれました。同時期の池袋の街は、アトリエ村に住む美術家、詩人、映画人、そして学生達のたまり場で創造への意欲を育む土壌となりました。そのような光景を詩人の小宮秀雄は「池袋モンパルナス」と称し、長崎アトリエ村などの隣接地も含めた池袋モンパルナス文化圏が形成されました。アトリエ付借家のほとんどは戦争で焼けてしまいましたが、長崎にある池袋モンパルナスアトリエ館は今も残るうちの軒で、当時の趣を残したまま改修されました。
- 新宿区落合は明治以降も郊外の風致をとどめ、のどかな田園風景と閑静な住宅地が広がる地域だったため、過密化が進む都心を離れて静かな創作環境を求めて多数の文化人が移り住みました。

※参考文献  
豊島区公式ホームページ [www.city.toshima.lg.jp](http://www.city.toshima.lg.jp)  
「落合の追憶 落合に生きた文化人」（発行：新宿区地域文化部）



- 1: 池袋モンパルナスアトリエ館
- 2: 中村彝アトリエ記念館の北側窓
- 3: 林芙美子記念館
- 4: 春日部先生が解説中
- 5: 林芙美子が使っていた書斎

- 2001年からスタートしたBIWAKO ビエンナーレですが、今年の「BIWAKO ビエンナーレ 2016」は「見果てぬ夢 (Eternal Dream)」をテーマに2016年9月17日(土)～11月6日(日)の会期で開催されました。会場となる近江八幡旧市街は、江戸期に建てられた町家が軒を連ね、国の重要伝統的建造物群保存地区となっています。
- アンドリュース記念館は、ヴォーリズの大学時代の親友であるハーバート・アンドリュース氏のために、アンドリュースの遺族より贈られた資金とヴォーリス自身の貯蓄金を捧げて自らが設計し、1907年に竣工したヴォーリス建築第一号の建築物で、会館内の書斎と暖炉のある小部屋は「祈りの部屋」と呼ばれ、当時のままの姿が保存されています。
- ウォーターハウス記念館は、近江ミッション伝道活動を行ったウォーターハウス氏のために1913年に建てられた住宅で、その後は近江勤労女学校、近江兄弟社女学校などの施設・ゲストハウスとして使われました。アメリカの伝統的な建築様式である「コロニアルスタイル」の住宅建築です。

※参考文献  
近江八幡観光物産協会ホームページ [www.omi8.com](http://www.omi8.com)



近江八幡

新宿区落合  
豊島区长崎





### 第一回ホームカミングデー —瓜生山キャンパス— 2016年10月9日(日)

学校法人瓜生山学園は来年2017年で開校40周年を迎えます。この記念すべき節目の年を前に、卒業生とともに喜びを分かち合おうということで、「第一回ホームカミングデー」というイベントが瓜生山キャンパスで開催されました。

当日は春秋座での市川猿之助さんによる歌舞伎公演や記念パーティー、パネル展などが行われるとともに、卒業生が運営しているショップや飲食店が飲食ブースとして設営されていました。

空デからは昨年度卒業された片岡智さんが卒業制作でも活躍したフードトラックをキャンパスに持ち込んで「シンパカフェ」として出店しました。  
※写真提供：片岡智さん(2015年度卒業生)

### 空間演出デザインコース大忘年会 —京都・元田中 天寅— 2016年12月17日(土)

すっかり年末の恒例行事となった感がある在校生主催の「空間演出デザインコース大忘年会」が京都市左区元田中の「天寅」で開催されました。この日は昨年と同様、在校生・卒業生、そして田村蘊先生、上田篤先生、川合健太先生のコース専任教員を含む多数の先生たちも参加して約70名という大所帯で食べて飲んで語らっての宴となりました。

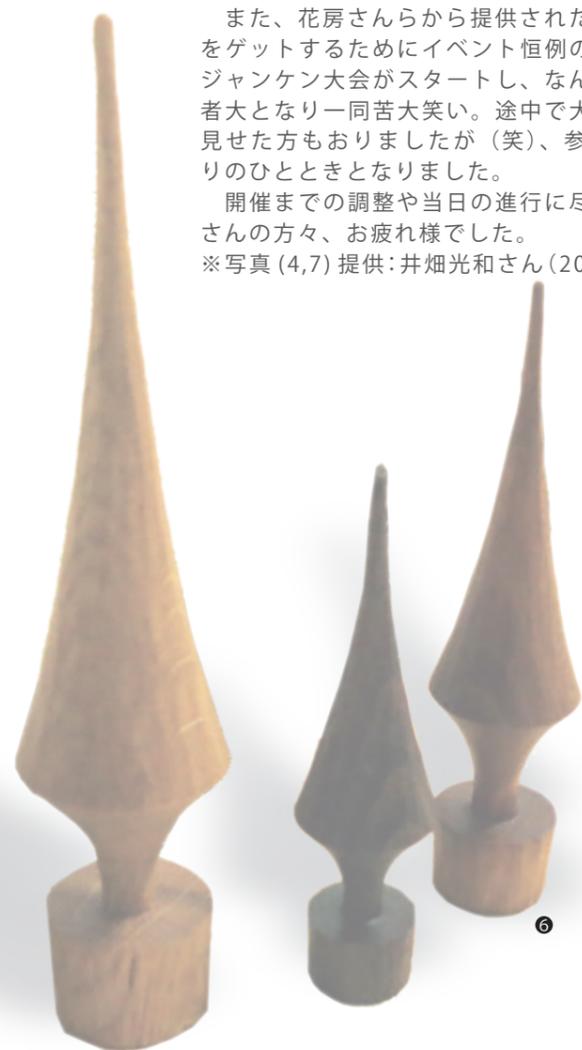
昨年も開催した名札コンテストが行われ、木工家の川端健夫さん(2012年度生)、同じくグラフィックデザイナーの西田有輝さん(2012年度生)、モデルの花房澄夫さん(2014年度卒業生)、次期同窓会長(!?)の水野順子さん(2015年度卒業生)の4名が審査員となり、それぞれから賞が贈られました。

また、花房さんらから提供された特別プレゼントをゲットするためにイベント恒例の参加者全員でのジャンケン大会がスタートし、なんと寺尾先生が勝者大となり一同苦大笑い。途中で大人げない行為を見せた方もおりましたが(笑)、参加者大盛り上がりひとときとなりました。

開催までの調整や当日の進行に尽力を頂いた幹事さんの方々、お疲れ様でした。  
※写真(4,7)提供：井畑光和さん(2012年度卒業生)



- 1: ジャンケン大会で寺尾先生一抜け
- 2: 審査員4名が各自の名札を厳選中
- 3: 個性溢れる多数名札が有りました
- 4: 川端さん(中央)からの賞品贈呈
- 5: 団扇のイラストが若過ぎ!?(笑)
- 6: 川端さんからの賞品です
- 7: 最後はみんなで記念撮影



### ドリル大学習会(京都・東京) 11月26日(土)

空デ研究室の教員が立ち会ってのドリル大学習会が京都・瓜生山キャンパスと東京・外苑キャンパスにて同日開催されました。外からの雑音や誘惑から隔てられた教室で、時には疑問点を教員に質問しながらドリルに取り組むことになったため、思いの外課題が進んだようです。東京では卒業生の片岡智さんが暖かいコーヒーを差し入れてくれるとともに自己の経験談を紹介いただきました。



### MikanBaco in Flannagan 12月18日(日)—12月25日(日)

春の「デザインフェスタ」、夏の「アートマルシェ」に参加した空デ有志によるデザインチーム・ミカンバコが大阪・南船場で洋書・輸入文具を扱う「フラナガン」に期間限定で出店しました。



今回は「異国の文房具」というテーマで15名の在校生・卒業生が参加し、それぞれが持つアイデアや技術を活かした個性溢れるプロダクトとして表現しました。

「フラナガン」は、大阪市中央区南船場に建つ大阪農林会館の4階にあります。大阪農林会館は、1930年に三菱商事の大阪支店として三菱合資地所によって設計されたレトロな趣のあるビルです。店内には建築関係の洋書もありますので、興味のある方は足を運んでみてください。



## 2017年度 学習環境変更・カリキュラム改編

『雲母』8月号の「特集1」で案内されている通り、2017年度から通信教育部の学習環境が大きく様変わりします。また、『雲母』12月号では2017年度のカリキュラム改編の案内もありました。新しい課題内容などの詳細は今後案内がありますが、ここでは今まで案内された変更のポイントを簡単に記載したいと思います。



### 学習環境変更：ポイント1 学習のための媒体が整備される

通信教育課程のWebサイト（airU・サイバークャンパス・学習メニュー）がまとまり、airUとしてすべての情報が届けられます

- ・次のレポートや作品の締め切り日が確認できます
- ・Web上で履修計画が作成できます
- ・学習の補助となる動画教材を順次取り入れていく予定です

TR科目（テキストレポート科目）は原則すべての科目において、レポート合格後に単位修得試験の受験となり、Webからも単位修得試験が受験可能となります

- ・遠方の方や土日に時間が取れない方もWeb上で受験可能です
- ・今までとおりに会場での単位修得試験の受験もできます

### 学習環境変更：ポイント2 学習プランが作成しやすくなる

卒業関連科目など一部の科目を除いて、履修サイクルが春夏秋冬それぞれ3ヶ月タームとなります

- ・テキスト課題の提出
- ・単位修得試験の受験
- ・スクーリングの申し込み

- ・TW科目（テキスト作品科目）は年8回のいずれかの期間での提出となります（すべてWeb提出が可能）
- ・TR科目（テキストレポート科目）は年4回（一部の科目においては移行期間として2019年度（予定）まで7回）のいずれかの期間での提出となります（すべてweb提出が可能）

### 学習環境変更：その他

- ・すべての科目においてシラバスがairUで公開されます
- ・CAP制を導入し、1年間に履修できる単位の上限を設けます（スクーリング科目の年間の履修上限単位数は24単位以内となります）
- ・特別履修制度は廃止となります

- ・各種証明書の申し込みや学籍更新手続きなどもWebからできるようになります（今までとおりに郵送・窓口での申し込みや手続きも可能です）

### 2016年度までの履修形態

T	テキスト科目（レポート／作品）
WT	ウェブテキスト科目
WS	ウェブスクーリング科目
S	スクーリング科目 芸術学舎科目

### 2017年度からの履修形態

TR	テキストレポート科目（レポート課題と単位修得試験のある科目）
TW	テキスト作品科目（作品課題の科目）
TX	テキスト特別科目（卒業関連科目、論文研究などの特別な科目）
WS	ウェブスクーリング科目
S	スクーリング科目
SG	芸術学舎科目

### 2017年度からの提出スケジュール

	春期			夏期			秋期			冬期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
TR	レポート 21~30		試験 1~8*	レポート 21~30		試験 1~8*	レポート 21~30		試験 1~8*	レポート 21~30		試験 1~8*
TW	作品 11~20	作品 11~20		作品 11~20	作品 11~20		作品 11~20	作品 11~20		作品 11~20	作品 11~20	
TX	課題の提出期間は科目により設定されます											
WS		レポート 21~28	最終講評 11~18		レポート 21~28	最終講評 11~18		レポート 21~28	最終講評 11~18		レポート 21~28	最終講評 11~18

※対面(試験会場)での単位修得試験は期間中の原則土日に開催します  
 …現在のT科目（テキスト科目（レポート／作品））からTR科目（テキストレポート科目）に移行する一部の科目においては、移行期間として2019年度まで（予定）は上表の4月度、7月度、10月度、1月度に加え、5月度、8月度、11月度も提出期間を設けます。各科目の提出期間については2017年度のシラバス等で確認してください。

2017年度からの通信教育部は全面的に airU による運用をベースとした新しい学習環境へと変わります。そこで空間演出デザインコースにおいても、その新しい学習環境に則したカリキュラムへと進化させるため、2018年度の完成を目指してカリキュラムの改編を行うことになりました。これまでも年度ごとにカリキュラムの改編を繰り返してきましたが、空間をデザインする力を身につけ、さまざまな領域で自らの提案を社会に発信できるようにという部分は変わりません。

各科目の課題内容の変更有無は『雲母』2月号で、また新しい課題の内容などカリキュラム改編の詳細については、2017年度の Web シラバスを確認ください。

### デザイン科共通での変更事項

また、2017年度からデザイン科共通でのカリキュラム改編があります。

ひとつめは、卒業制作着手の本要件がデザイン科共通となり、「空間演出デザイン演習Ⅲ-1」「空間演出デザイン演習Ⅲ-2」の第一課題合格済みで、かつ3年次スクーリング「空間演出デザインⅤ」を6科目合格することで卒業制作の本要件がクリアとなります。なお、3年次スクーリング履修の前提条件、卒業制作着手仮要件に変更はありません。ふたつめは、3年次専門演習テキスト課題「空間演出デザイン演習Ⅲ-1」「空間演出デザイン演習Ⅲ-2」の課題数が2課題から1課題となります。（取得単位数は変わりません）

### 空デカリキュラム改編のポイント

「インテリアデザインを主軸として  
領域横断的デザインを学ぶ」

1年次	デザインの基礎力を習得し、デザインの楽しさ・魅力を発見する
2年次	空間をデザインする手法と考え方を学ぶ
3年次	空間と様々な領域の関係性を探り、デザインの活用法を学ぶ
4年次	それぞれのおもてなしのデザインを提案し、他者へ伝える

## KUDEオープンゼミ



京都は学内カフェBREATH KUAD  
近くでやっています

## 2016年度卒業制作 最終審査聴講



2015年度の東京での最終審査の一コマ

## 2016年度卒業・修了制作展



2015年度の卒業制作展から

オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

### ■京都

日時：2017年1月7日（土）17:00～19:00  
2017年2月4日（土）12:30～14:30  
会場：瓜生山キャンパス人間館1階ラウンジ  
担当教員：上田篤、寺尾文秀、他（予定）

### ■東京

日時：2017年1月15日（日）17:00～19:00  
2017年2月11日（土）17:00～19:00  
会場：東京外苑キャンパス1階エントランスホール  
担当教員：川合健太、他（予定）  
※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、サイバーキャンパスで事前に確認してください。

「卒業制作6」で開催される最終審査は在校生（休学生含む）が聴講出来ます。来年度に卒業制作に着手予定の方は参考になると思いますので、是非聴講ください。事前の申し込みは不要ですが、審査中の入退室はできませんので、開始時間までに各教室へ集合してください。

日時：2016年1月29日（日）  
10:00 開始（開始時間の10分前にお集まりください）  
会場：京都 人間館 NA 棟 / 東京 外苑キャンパス  
※教室については当日の掲示を確認ください

2016年度卒業・修了制作展（通信教育課程）が以下の日程で開催されます。詳細については、2/25 発行予定の『雲母』3・4月合併号、およびサイバーキャンパスにて確認してください。

日時：2016年3月12日（日）～3月19日（日）  
11:00～18:00（最終日は17:00まで）  
会場：瓜生山キャンパス ギャラリー・オーブ、芸術館、人間館 NA 棟

また、デザイン科では Web 上でも卒業制作展を開催します。こちらは会期が6月末までとなっていますので、瓜生山キャンパスでの卒業制作展が観れない方、あるいは再度ゆっくりと作品を確認したいという方はサイバーキャンパスのリンク先へアクセスしてみてください。

掲載期間：2016年3月12日（日）～6月30日（金）



中信美術奨励基金による「京都美術文化賞」は、美術の創作活動を通じて京都市民の精神文化向上に多大な功績が有った人に対して贈られる賞です。2016年（第29回）では、昨年度「卒業制作（最終審査）」のゲスト審査員だった陶芸家の松井利夫先生が受賞されました。この度、受賞記念展が開催されることになりましたので、時間のある方は足を運んでみてください。

会期：2017年1月13日（金）～1月22日（日）  
10:00～18:00（最終日は16:30まで）  
会場：京都文化博物館（京都市中京区三疊高倉） ※入場無料

## 空間演出デザインコース特別講義2016

### 京都

「伝統工芸とデザインのアンビバレント」  
○日時：2017年1月21日（土）18:00～19:30  
○講師：乾 陽亮 先生

京都では、大阪で活躍中のデザイナー乾陽亮先生に「伝統工芸とデザインのアンビバレント」をテーマにお話しいたします。

様々なデザイン分野を横断的に活躍される乾先生が現在取り組んでいるのが伝統工芸産業とデザインのコラボレーション。これまで手掛けたデザインやその誕生秘話を生々しく紹介いただきながら、これからのデザイナーの役割について考える機会にできればと思います。



「WAPPA BAG、曲げわっぱの和装バック」©梅田彩香

乾陽亮先生のプロフィール  
1976年大阪府堺生まれ。乾陽亮設計事務所主催。伝統工芸などのプロダクト、パッケージ、グラフィック、ウェブなどを統合して手掛け、ブランディングを通じて「クライアントの20年をつくるデザイン」を目指している。京都家紋研究会会員。

### 東京

「素材・空間」  
○日時：2017年1月14日（土）18:00～19:30  
○講師：榊田 倫之 先生

東京では、空デ V-2「ショップデザイン」、V-3「ライティングデザイン」（東京）をご担当の建築家、榊田倫之先生に「素材・空間」についてお話しいたします。

榊田先生がこれまで手掛けられた国内外の空間は、われわれの想像を超えるこだわり抜かれた驚きの素材で構成されています。特別講義では、そうした空間を構成する素材にスポットを当て、建築家の考える素材と空間の関係について、最新プロジェクトの報告も交えお話しいたします。



©Hiroshi Sugimoto  
Design Architect: NMRL / Hiroshi Sugimoto + Tomoyuki Sakakida

榊田倫之先生のプロフィール  
1976年滋賀県生まれ。2003年榊田倫之建築設計事務所設立。2008年には建築設計事務所「新素材研究所」を現代美術作家杉本博司と設立。現在、榊田倫之建築設計事務所主宰、新素材研究所取締役所長、京都造形芸術大学非常勤講師。

## 編集室から



2016年最後の決めポーズ!

- 今回の表紙は、大忘年会での楽しげ（怪しげ？）な一コマです。
  - 2017年度の学籍更新の受付期間が2017年1月20日（金）必着となっています。来年度も引き続き学習される方は手続き不要ですが、来年度休学される方、休学中の方で来年度復学される方は手続きが必要となりますので、忘れずに手続きをしてください。
  - 自主制作・不定期発行である「Kurara」が世に出たのが2009年12月。人形町サテライトキャンパスでの東京懇親会で通信・情デ在校生の仲間に向けて作ったのが始まりでした。空デコース公認冊子となってからは、まだ7冊めですが、みなさんに楽しく読んで頂けるような紙面づくりに精進してまいります。
- 【表紙の色 千歳緑（せんざいみどり）】

## 働く空間



## もてなし時間

事務用品で構成された私が毎日働いている空間。床はグレーの絨毯、壁紙はオフホワイト、照明は蛍光灯。インテリアは、鉄の足が付いた白い机と座面の青いスタッキングチェア。

「極力、高価なものを買わず、同じような品があれば安い方を選ぶ。」

それはお金のない会社では当たり前のこと、**「普通」の光景。**

私は、その光景に何の違和感も抱かなかった。明るい雰囲気はなかったが、「普通」の光景。

季節柄か、自律神経のバランスを乱し、パソコンに向き合うのが辛くなった時期があった。

自律神経のバランスを整えるために色々なことをした。部屋の掃除をしたり、美味しいものを食べたり、明るい色の服を買ったり、自分がリラックスすると思うことは何でもした。

その頃からか、「普通」と思っていた光景が、急に違和感のある光景になった。人が長い時間過ごす場所がこんなに殺風景で良いのか？

ただ最低限のものがあれば、人間が機械みたいに働けると思われる。どんな空間でも、人に影響を与え続けていると思う。色や素材や光が人間に影響を与え続けているというのに、「必要のないもの」と思われている。

それは一見、合理的ではあるけれども、本当は人間の本质や性質を無視しているだけじゃないかと思う。どんな空間でも、人間が生き生きできる空間でなきゃいけないと思う。

二〇一三年度卒業生 愛敬 令菜